

講義コード	1054410000
講義名称	教育経営学 <春>
科目英文名	Educational Administration
開講責任部署	経営学部 経営学科
代表ナンバリングコード	0EDU2560
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 3時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
伊藤 潔志

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	教育経営学は、教育活動にも経営的視点が必要であるという観点から成り立っている学問領域です。従来、学校は経営学の主たる考察対象ではありませんでしたが、誰にも馴染み深い組織です。本科目では学校を題材にして、組織の構造・機能・責任を考察するとともに、学校と家庭・地域との連携・協働の在り方などについて学びます。そして、地域における教育の在り方についても、経営の観点から考察していきます。
学習（到達）目標	① 学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。 ② 学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。 ③ 学校の管理下で起こる事件・事故・災害の実情を踏まえ、危機管理や学校安全の目的と具体的な取組を理解する。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	学校経営の基礎
第3回	教育行政と学校経営①：公教育の思想
第4回	教育行政と学校経営②：公教育の原理
第5回	学校組織と校務分掌
第6回	学校のリーダーシップ論
第7回	学校の組織風土論
第8回	学校の組織学習論
第9回	学校評価と学校改革
第10回	現代社会と教育課程①：教育課程の意義
第11回	現代社会と教育課程②：教育課程の変遷
第12回	カリキュラム・マネジメント
第13回	学校外との連携・協働
第14回	学校のリスクマネジメント
第15回	学級経営の意義、まとめ（学校経営と地域）

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	30%
その他	70%

成績評価の方法（コメント）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価は「レポート」（30%）と「授業課題」（70%）を基に総合的に判断する。</li> <li>・提出物はすべてWebClassを通して提出する。</li> <li>・2回のレポート提出と10回以上の出席を単位認定の基本条件とする。</li> </ul>
---------------	---

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.			プリント配布			必要に応じてWebClassから配布する。

参考文献	<p>① 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』東山書房、2020年。</p> <p>② 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』東山書房、2019年。</p> <p>※その他、必要に応じて資料を配布する。</p>
事前および事後学習の指示	<p>事前学習：教科書をよく読んでおくこと。</p> <p>事後学習：授業のノートをよく確認すること。</p>
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	1116020001
講義名称	経済学A 01<春>
科目英文名	Economics A
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	ECON1000
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 3 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
木村 佳弘

授業形態	講義	アクティブラーニング	その他 PCスキル前提 (google form利用)
------	----	------------	--------------------------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--	----------------------

講義・演習概要	この講義は、ミクロ経済学の基本を学ぶ入門的な講義です。 経済学的なものへの考え方は、社会に出る前から、あらゆる局面で役立ちます。
学習（到達）目標	この講義に積極的に参加することを通じて ①ミクロ経済学で必要とされる基本的な数学的知識を身に付けることができる。 ②ミクロ経済学の基礎理論を使い、特定の市場の動向を説明する能力を得ることができる。 ③ミクロ経済学の理論を深く学ぶための基礎能力を得ることができる。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	経済学を学ぶ前に (ミクロ経済学とマクロ経済学)
第2回	ミクロ経済学の考え方
第3回	個人の選択を考える
第4回	需要曲線と供給曲線
第5回	市場均衡と効率性
第6回	完全競争市場への政府介入と死荷重の発生 ① 価格規制
第7回	完全競争市場への政府介入と死荷重の発生 ② 参入規制
第8回	市場の失敗と政府の役割
第9回	独占
第10回	外部性
第11回	公共財
第12回	情報の非対称
第13回	取引費用
第14回	ゲーム理論と制度設計
第15回	試験とまとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	
その他	100%

成績評価の方法（コメント）	<p>&lt;制度上&gt; その他 100%</p> <p>&lt;実務運用上&gt; 講義時試験 30% 講義内課題 65% 講義への積極的参加等 5%</p> <p>学習目標の①、②、③を正確に理解できているかに関し、理解確認課題を課します。具体的には、講義時試験（30%）、講義時課題（講義内小試験+毎回の講義内課題65%）、講義への積極的参加（5%）の三つで評価します。</p> <p>講義時試験は最終講義時に実施するもので、講義時試験内容は、①に関しては計算問題の形式で出題し、②、③に関しては穴埋め式および論述式問題を出題します。論述式問題は論理構成が理解できているか、論理一貫性は確保されているか、日本語の妥当性等を問います。</p> <p>講義内課題は、毎回の講義課題が理解できているかを確認するものであり、主に①、②について短問で確認しますが、③について論述式で問うこともあります。</p> <p>講義への積極的な参加等（5点）は、講義に対し、講義受講者の理解を促進するような質問があった場合などについて加点を行うものです。具体的な基準例は第1回～第3回講義中にお示しします。</p>
---------------	--

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	安藤 至大	ミクロ経済学の第一歩	学生独自購入	978-4641150058	有斐閣	

事前および事後学習の指示	<p>事前：M-Portおよびteamsにアップロードされる資料から予習をしておくとい良いでしょう 事後：当日に出題された理解確認問題を正確に理解しておいて下さい</p> <p>数学を極力使わずに講義をしますが、最低限は出てきてしまいます。 利用する数学は、主に代数、一次関数（中学レベル）のみですが、一部で微分方程式（高校1年生程度）があります。 数学にアレルギーがある方には残念ながらお勧めできません。</p> <p>この講義はPCスキル（google formへの入力、動画閲覧環境、teamsへの加入・資料閲覧）を前提とします。 PCが苦手な方、PC環境が整っていない方は他の講義の受講を御勧めします。</p>
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	1530730000
講義名称	デザイン文化論 <春>
科目英文名	Media Culture and Design
開講責任部署	社会学部 社会学科
代表ナンバリングコード	COMM3400
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 3時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
有國 明弘

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	<p>本講義では、印刷技術により複製・量産される視覚的造形要素の大きいメディア、とりわけ19世紀から今世紀までの日本におけるグラフィック・デザインについて、以下の3つのポイントに留意しながら考察していきます。</p> <p>(1) 近代の視覚的メディアが成立していく歴史的経緯をたどること</p> <p>(2) グラフィックスにおける表現がいかなる視覚言語で構成されているのかを知ること</p> <p>(3) 視覚的メディアにいかなる技術や要素が盛り込まれているのかを理解すること</p> <p>それぞれの時代における歴史的・社会的背景も盛り込みながら、日本のグラフィック・デザインについて幅広く理解することが本講義の目的です。毎回コメントペーパーを配布（M-PortやWebClassの各機能等を活用）し、皆さんと対話的な学びの機会としたいと考えています。</p>
学習（到達）目標	<p>本講義では次のような知識や能力を受講生のみなさんが身につけることを目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本における近現代の視覚メディアがいかなる歴史的な変遷をたどったのかを理解する。</li> <li>代表的な制作者の造形的な特徴などを把握し指摘する。</li> <li>印刷技術によって複製される媒体の技術・歴史・文化を幅広く知り、私たちにどうヴィジュアル・コミュニケーションとは何かを考察する。</li> </ul>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	新春の図像学：正月用引札
第3回	明治ハイカラ・大正ロマン：日本のアール・ヌーヴォー
第4回	広告の絵画主義：美人画ポスター
第5回	七人社と商業美術家協会
第6回	日本のアール・デコ①（アール・デコとは何か）
第7回	日本のアール・デコ②（グラフィックデザインとジャパニーズ・アール・デコ）
第8回	戦中のプロパガンダ
第9回	日宣美の時代：グラフィック・デザイナー誕生
第10回	東京オリンピックと大阪万博
第11回	企業のイメージ戦略：広告のアート化
第12回	1970年代のグラフィックス
第13回	1980-90年代のグラフィックス
第14回	現代日本のヴィジュアル・コミュニケーションの諸相
第15回	まとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	70%
その他	30%

成績評価の方法（コメント）	毎回の授業課題を30%、期末レポートを70%として成績を評価します。
---------------	------------------------------------

参考文献	熊倉一紗『明治・大正の広告メディア―〈正月用引札〉が語るもの』吉川弘文館、2015年 竹原あき子・森山明子監修『カラー版 日本デザイン史』美術出版社、2003年 高島直之監修『デザイン史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルムアート社、2006年
事前および事後学習の指示	参考文献などを読み予習しておくこと。配布した資料を用いて復習すること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	1787530000
講義名称	アジア文化研究-アジアの海域世界を歩くA <春>
科目英文名	Study of Asian Cultures-Beyond the Asian archipelago A
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	CULT2490
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 3時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
鈴木 隆史

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	<p>海域世界とは「人々の暮らしや文化の様々な核的部分が何よりも海によって規定されると認められる地域圏」(小野林太郎、2011)と定義される。数万の島々からなる東南アジアの海域世界(フィリピン、インドネシアなどの島嶼国家)に暮らす人々は、漁撈、採集、製塩、交易、造船、農耕、海賊などを生業として生きてきた。これらの海域を中国人、インド人、アラブ人、マレー人などの商人たちがベトナム、沈香、蜜蝋、白檀、丁香、ナツメグ、胡椒、真珠などを求めて訪れた。交易は人やモノだけでなく、宗教や言語などの文化も伝えた。大航海時代から300年以上の間、西欧諸国による植民地支配、日本軍による占領・統治を経て独立する。ヒトやモノが自由に行き来した海域世界は国家や国境によって分断されたが、人々は今も海と深く関わりを持ち生きている。本講義では、1)アジアの海域世界がどのように形作られてきたのかを歴史的に捉え、2)その海域世界に生きる人々の現在を漁撈・採集を行う航海民、海産物商人など具体的な生業とその特徴について学び、3)グローバル化が進化する今、海域世界がどのような変化にさらされ、人々の暮らしはどのように変わろうとしているのか、さらに4)アジアの海域世界に生きる人々の暮らしと私たちの暮らしのつながりについても具体的なモノを通じて学び、考える。</p>
学習(到達)目標	<p>アジアの海域世界とはどのような世界なのか?そこに生きる人びと(海に生きる人びと)の多様な暮らしについて学ぶと同時に、海を通じてヒトとモノが移動し、結びつき、ダイナミックな世界を作っていることを知る。そこには国境や海境を自由に越えて行き来する海の民が暮らしてきた。海に生きる彼らの暮らしから国家や国境を相対化することができるようになる</p>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション アジアの海域世界とはどのような世界か?地図を広げてみよう。海が島々を分けている。深い海は島と島を隔てている? 海洋考古学の発見。ヒトはどのようにして海を渡って島々に移り住んだのか? 人類の移動手段(舟)の発達と漁撈(釣針)・化石(骨)から
第2回	海に生きる人びと 1) 漂海民バジャウ人の暮らし 映像で観る 家船から水上家屋へ
第3回	海に生きる人びと 2) ブギス・マカッサル人 交易・航海に生きる 島々を結ぶ、移動・分散・定住 大型帆船ピニシの造船と航海技術 アボリジニとマカッサン 航海民だけでなく開拓民としての性格を持つブギス人
第4回	海域世界を結ぶ交易品 1) 特殊海産物(ナマコ、フカヒレ、ベッコウ、ツバメの巣など)を求めた漁撈・採集・集荷・運搬を担う人びと 華人商人の誕生と中国(清)宮廷食文化
第5回	海域世界を結ぶ交易品 2) アジアの海域世界と中華、インド、アラブ、ヨーロッパをつなぐモノとヒト 鄭和の大航海 アラブ人の交易(ダウ船) バスコ・ダ・ガマの大航海 香料の発見(コショウ、クローブ、ナツメグ、白檀)と独占をめぐる争い
第6回	海域世界を越える人と文化 仏教、ヒンドゥー教、イスラム教、キリスト教の伝播と受容 王と商人の役割 ポロブドゥール、プランバナ、プサキ寺院など
第7回	海域世界を支配する人びと 港市国家と交易の発展とオランダ、イギリス、ポルトガル、スペインの台頭と支配 島の支配から面の支配へ 王国から植民地支配 変貌する海域世界
第8回	海から大地の支配へ 植民地支配と海域世界 プランテーション経営 ゴム、コーヒー、茶、サトウキビ、ヤシ(コブラ) プランテーション労働者はどこから? 中国人苦力 ジャワ人
第9回	海に生きる人びと 3) 海峽漁業の誕生と発展 バガンシアピアビと華人漁民・華人商人 塩と魚と交易 マングローブの森に誕生した華人漁民集落

第10回	海に生きる人びと 4) イワシ漁業の村 網漁業の発展と市場の発達 バリ海峡に回遊してくるレムル マドゥラ人の漁民たち 東ジャワ、ムンチャール
第11回	海に生きる人びと 5) 沿岸から沖合へ サメを求めて 西ジャワ、インドラマユの延縄漁民たち 山に登ったサメ肉、海を渡ったフカヒレ
第12回	海に生きる人びと 6) サンゴ礁に生きる海人たち ピアク島(スピオリ島)ソウェク 塩魚と鍛冶職人
第13回	海に生きる人びと 7) 海の掟を守る人びと 伝統的資源管理の仕組み「サシ」 マルク海、ハルク島ハルク村 海と森と川を守る人びと
第14回	海に生きる人びと 8) マッコウクジラと鉾一本で挑む インドネシア、レンバタ島ラマレラ村
第15回	海域世界の多様性と海に生きる人びと 国境って何だろう？

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	70%
その他	30%

成績評価の方法（コメント）	出席は毎回の授業のレポート提出による。授業内容の把握度を確認する。評価は毎回の提出課題(レポート（40%）と最終レポート（60%）)によって評価する。
---------------	---

参考文献	鶴見良行著『ナマコの眼』筑摩書房1990年、ISBN4 - 480 - 85522 - X、同『街道の社会史』1987年朝日新聞社、ISBN4 - 02 - 259430 - 6 鶴見良行・村井吉敬編著『道のアジア史』同文館1991年、ISBN4 - 495 - 85581 - 6、村井吉敬著『サシとアジアと海域世界』コモンズ、1998年、ISBN4 - 906640 - 10 - 9 北窓時男著『熱帯アジアの海を歩く』成山堂書店2001年、ISBN4 - 00 - 415074 - 4、秋道智彌著『海人の世界』同文館1998年、ISBN4 - 495 - 86291 - X 小野林太郎著『海域世界の地域研究』京都大学学術出版会、2011年、ISBN978 - 4 - 87698 - 995 - 9、小島曠太郎著『クジラと生きる』中公新書、1999年
事前および事後学習の指示	授業前にM・portにアップした資料などに目を通しておくこと
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	海域世界、特殊海産物(フカヒレ、ナマコ、ツバメの巣)、交易、国境、サシ、エビ、マグロ

講義コード	17F4820000
講義名称	世界のメディアA <春>
科目英文名	World Media A
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	FMED2410
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 3時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
小池 誠

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	この講義では、マンガ・アニメや音楽など日本から国境を越えて世界に広がるポピュラー・カルチャーを対象にして、現代世界におけるメディアのグローバル化の問題を考えます。授業のなかで映像資料などを使って、世界のメディアにアプローチしたいと思います。この講義は、世界のメディアを通して、幅広く現代世界のさまざまな文化とグローバリゼーションの動向に対する理解と関心を深め、「多文化共生をめざす国際理解の促進」と「現代の諸問題への対応」につながることを目的としています。
学習（到達）目標	講義を通して、以下の3つの目標を達成できるようにします。 ① 現代世界におけるメディアのグローバル化について理解し、正しい知識をもつ。 ② 授業で取り上げたテーマについての確に論じることができる。 ③ 講義で学んだことを正確にまとめ、それにもとづいて自分の意見を述べるることができる。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	授業ガイダンス：現代世界におけるメディアのグローバル化
第2回	日本マンガの海外進出：歴史
第3回	日本マンガの海外進出：現状と問題点
第4回	フランスのマンガ喫茶
第5回	日本アニメの海外への広がり：歴史
第6回	日本アニメの海外への広がり：問題点
第7回	日本アニメの新たなグローバル化
第8回	日本マンガとアニメの海外における実写化
第9回	日本のマンガとアニメのグローバルな人気
第10回	J-POPのグローバル化
第11回	世界のkawaii人気
第12回	パリのJapan Expo
第13回	世界に広がるコスプレ
第14回	政府支援によるクールジャパン戦略
第15回	講義のまとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	30%
レポート	25%
その他	45%

成績評価の方法（コメント）	試験は授業内容に関する小テスト（3点）を計10回実施する（計30点） レポートは中間レポート（10点）および最終レポート（15点）の計2回実施する（計25点）。 その他は5回の小レポート（3点）と毎回の授業中に書くコメントシート（2点）によって授業への積極的な参加度を評価する（計45点） 出席自体は評価の対象にならないので、かならず授業中にコメントシートを書いてください。
---------------	--

参考文献	講義のなかで必要に応じて紹介します。
事前および事後学習の指示	次回の授業までに読んでおくべき授業資料を配布しますので、よく読んでから授業に出てください（事前学習）。また、授業後、かならず資料を読み直して事後学習してください。なお、授業で取り上げたテーマに関連する映像資料などを積極的に観るようにしてください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	ポピュラー・カルチャー、マンガ・アニメ、グローバル化、J-POP

講義コード	1N10920000
講義名称	商取引法Ⅰ <春>
科目英文名	Commercial Law Ⅰ
開講責任部署	法学部 法律学科
代表ナンバリングコード	0LAW2480
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 3時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
大川 濟植

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 課題解決
---------------	--------------------------------------

講義・演習概要	<p>【講義名称】 商取引法Ⅰ</p> <p>——ビジネスの「プロ」が守るべきルール</p> <p>I 講義概要</p> <p>経済社会において、企業（株式会社や個人商店）は「商人（プロ）」として活動している。民法が「対等な個人間のルール」であるのに対し、商法は「プロ同士の、迅速かつ安全な取引のためのルール」である。</p> <p>本講義では、商法典（商法総則・商行為）に基づき、ビジネスの基礎インフラである「商号（ブランド）」「商業登記（信用）」「商業使用人（組織）」の仕組みを学ぶ。「商取引法」という名前だが、単なる条文の暗記ではない。「ビジネスの現場で、誰が責任を負い、どうやって信用を守るか」という、実務の最前線で必須となる法的思考（リーガルマインド）を養うことを目的とする。</p> <p>II なぜ、いま「商取引法Ⅰ」を学ぶのか？</p> <p>1. 「プロ」としての法的常識を身につける</p> <p>ビジネスの世界では「知らなかった」は通用しない。商法は、商取引のスピードを重視しつつ、外観（見た目）を信頼した者を保護する独特のルールを持つ。このルールを知ること、将来ビジネスパーソンとして活動する際、無用なトラブルを回避し、自信を持って取引に臨むことができる。</p> <p>2. 企業の「ブランド」と「信用」の守り方を知る</p> <p>企業にとって「社名（商号）」や「登記」は、顧客との信頼を結ぶ生命線である。「他社に社名をマネされたらどうするか？」「名義を貸しただけで借金を背負うのか？」といった具体的な事例を通じ、企業の無形資産を守るための法的ロジックを習得する。</p> <p>III 授業の進め方（毎回のルーティン）</p> <p>各回、概ね次の流れで進める。「予習→実践→復習」のサイクルを回し、着実に力をつける。</p> <p>1. 学習チェック（ポイント確認）：本日の到達点（重要論点）を短時間で確認し、授業の見取り図を共有する。</p> <p>2. 導入事例（ケーススタディ）：実務で実際に起きそうな「数行のトラブル事例」を提示する。</p> <p>3. 図表で全体像をつかむ：「民法と何が違うのか？」「誰を守る制度か？」を図解で整理する。</p> <p>4. 条文の使いこなし：法律要件→効果→例外の順に読み解き、当てはめの骨格を作る。</p> <p>5. 設問を通じた考察：一方的な講義ではなく、短い設問に対し「なぜそうなるか」を考える時間を設ける。</p> <p>※ 講義レジュメは原則1週間前までに配布する。</p> <p>※ 復習用録音をOneDriveで提供する。欠席時や復習に活用できる。</p>
	<p>「商取引法」は、司法試験・公認会計士試験をはじめ、司法書士・行政書士・ビジネス実務法務検定試験・宅地建物取引士試験など、多くの資格試験における重</p>

要科目である。一方で、条文が膨大かつ構造が複雑であるため、独学では「全体像が見えにくい」と言われる難関科目でもある。

本講義（商取引法Ⅰ）では、単なる暗記ではなく「法的な思考プロセス」を重視し、以下の状態に到達することを目指す。

1. 商人・商行為・商取引の「構造」を視覚化できる

商人・商行為・商取引に必要な法制度の仕組みとその趣旨を、図解を用いて直感的にイメージできる状態にする。

2. 条文を「ツール」として使いこなせる

条文を漫然と読むのではなく、「法律要件（何を満たせば）→効果（どうなる）→例外（ただし）」の論理構造で読み解く。六法を武器として、自力で正解にたどり着けるスキルを身につける。

3. 商取引の課題を「法的根拠」で解決できる

具体的なトラブル事例や商取引の課題に対し、適法な解決策を提示できるだけでなく、なぜそうなるのかという「理由（法的根拠）」を論理的に説明できる。

以上の到達目標は、先に示した「授業の進め方（毎回のルーティン）」の反復練習を通じて、着実に達成を目指すものである。

## 学習 （到達） 目標

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	<p>【第1部：商法の世界へようこそ —— プロのルールとは（第1回～第2回）】</p> <p>→民法（市民法）と商法（企業法）の違いを理解し、誰が「商人」として扱われるのかを学ぶ。</p> <p>第1回：ガイダンス&amp;商法ってなに？</p> <p>【テーマ】商法の意義、企業法説、民法との関係</p> <p>【問  い】なぜ「商法」という特別ルールが必要なのか？民法の原則（対等・自由）を修正する理由。</p>
第2回	<p>第2回：プレイヤーとルール</p> <p>—— 商人と商行為</p> <p>【テーマ】商人（当然・擬制）、商行為（絶対的・営業的・附属的）</p> <p>【問  い】屋台のラーメン屋や農家は「商人」か？お金を貸す行為は、銀行と個人でどう扱いが違うのか？</p>
第3回	<p>【第2部：会社の「顔」と「信用」 —— 登記と商号（第3回～第7回）】</p> <p>→会社のブランドを守る「商号」と、取引の安全を担保する「商業登記」のメカニズムを紐解き、対外的な「信用」がいかに法的に構築されるかを理解する。</p> <p>第3回：社会への自己紹介</p> <p>—— 商業登記の基本</p> <p>【テーマ】商業登記の意義、登記事項、公示力（消極的・積極的）</p> <p>【問  い】なぜ会社は登記をしなければならないのか？登記簿に書かれた情報の「絶対的な効力」とは。</p>
第4回	<p>第4回：ウソの登記と責任</p> <p>—— 不実登記</p> <p>【テーマ】不実登記の効力、外観法理（権利外観理論）</p> <p>【問  い】登記簿にウソが書いてあり、それを信じて取引した人は守られるか？会社側の「うっかり」は許されるか。</p>
第5回	<p>第5回：会社の名前を決める</p> <p>—— 商号の選定と保護</p> <p>【テーマ】商号選定の自由、商号単一の原則、商号権、不正競争防止法</p> <p>【問  い】「ソニー」や「トヨタ」という名前の会社を勝手に作れるか？有名企業にタダ乗りする行為への制裁。</p>

第6回	<p>第6回：名前を売る</p> <p>——商号の譲渡</p> <p>【テーマ】商号譲渡の要件、対抗要件、変更登記</p> <p>【問 い】会社の「名前」だけを売買することはできるか？ 営業と一緒に譲渡しなければならない理由。</p>
第7回	<p>第7回：名前を貸すリスク</p> <p>——名板貸</p> <p>【テーマ】名板貸人の責任（商法14条）、外観への信頼</p> <p>【問 い】「名前だけ貸してくれればいいから」と頼まれて承諾したら、借金の肩代わりをさせられる？</p>
第8回	<p>【第3部：ビジネスの承継と管理（第8回～第10回）】</p> <p>→会社そのものを売買する「M&amp;A」の基礎と、経営の記録である「帳簿」について学ぶ。</p> <p>第8回：会社を丸ごと売る</p> <p>——営業と営業譲渡①</p> <p>【テーマ】「営業」の意義、営業譲渡の手続き、競業禁止義務</p> <p>【問 い】「店を譲ります」と言ったとき、店舗だけでなく「常連客」や「ノウハウ」も引き継がれるのか？</p>
第9回	<p>第9回：借金も引き継ぐか？</p> <p>——営業と営業譲渡②</p> <p>【テーマ】譲受人の責任（商号統用・債務引受広告）</p> <p>【問 い】買収した会社の名前をそのまま使い続ける場合、前の持ち主の借金まで払わなければならないのか？</p>
第10回	<p>第10回：経営の通信簿</p> <p>——商業帳簿</p> <p>【テーマ】会計帳簿、貸借対照表、作成義務と保存義務</p> <p>【問 い】なぜ商人は帳簿をつけなければならないのか？ 裁判での証拠力と、健全な経営のための義務。</p>
第11回	<p>【第4部：組織とパートナー（第11回～第14回）】</p> <p>→社長一人ではビジネスは回らない。内部の「従業員」と外部の「代理商」の権限と責任を学ぶ。</p> <p>第11回：最強の従業員</p> <p>——商業使用人① 支配人</p> <p>【テーマ】支配人の意義、選任、包括的代理権</p> <p>【問 い】支店長（支配人）が勝手にやった契約を、本社は「聞いていない」と言って無効にできるか？</p>
第12回	<p>第12回：ニセモノと平社員</p> <p>——商業使用人② 表見支配人等</p> <p>【テーマ】表見支配人、ある種類・特定の事項の委任を受けた使用人</p> <p>【問 い】「支店長代理」や「営業所長」という肩書きを持つ人に、契約権限はあると信じてよいのか？</p>
第13回	<p>第13回：外部のパートナー</p> <p>——代理商① 基本構造</p> <p>【テーマ】代理商の意義、社員（使用人）との違い、法的性質</p> <p>【問 い】特定の会社のために継続的に取引を代行する「代理店」。社員ではない彼らは、会社とどういう関係にあるか？</p>

第14回	<p>第14回：パートナーの権利義務</p> <p>——代理商②</p> <p>【テーマ】通知義務、競業禁止義務、留置権、補償請求権</p> <p>【問 い】代理店契約が終了した時、開拓した顧客はどうなる？ 代理商が努力して広げた販路に対する「手切れ金（補償）」の話。</p>
第15回	<p>【第5部】総まとめ</p> <p>第15回：総合演習</p> <p>——ある商人の成功とトラブルの軌跡</p> <p>【テーマ】商法総則・商行為法の横断的理解、事例問題への応用</p> <p>【内容】ある個人商店が法人化し、支店を出し、他社を買収し、代理店を使う…という一連の成長ストーリーの中で発生するトラブルを解決する。</p> <p>【問 い】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.（創業期）：登記を忘れたらどうなる？（不実登記）</li> <li>2.（拡大期）：支店長が勝手な契約をした。（表見支配人）</li> <li>3.（転換期）：営業譲渡で借金はどうなる？（営業譲渡）</li> <li>4.（発展期）：代理店が競合商品を買った。（競業禁止義務）</li> </ol>

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	20%
レポート	60%
その他	20%

成績評価の方法（コメント）	<p>【成績評価の方法】</p> <p>「暗記」ではなく「理解と論理的思考」を評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 理解力テスト（配点：20点） →授業内容の定着度を確認するテストである。</li> <li>② 平常点（配点：20点） →授業への積極的な参加度などを評価する。</li> <li>③ レポート課題（配点：60点） →学期中に課される課題である。「商取引法Ⅰ」は「課題解決型授業」を目指すので「論理的な構成員」を重視する。</li> </ol> <p>※ 成績評価は合計100点で評価する。その詳細については、第1回目の対面授業で詳しく説明する。</p>
---------------	--

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	北村雅史	商法総則・商行為法（第2版）	大学オンライン販売	978-4-589-04201-9	法律文化社	

事前および事後学習の指示	<p>【受講生の学習サイクル（推奨）】</p> <p>授業効果を最大化するため、次の手順で学習することを推奨する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予習（20～30分） →配布レジュメを通読し、該当する条文にマーカーや付箋を貼る（これだけで授業の理解度が段違いである）。</li> <li>・ 授業中 →「なぜそうなるのか？」という理由付けを常に考える。</li> </ul>
--------------	---

	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 復習 (30分)<ul style="list-style-type: none"><li>→ 学習チェック項目や授業中の設問を、何も見ずに「根拠条文」と「理由」付きで答えてみる。不明点はOneDriveで提供する録音ファイルで再確認。</li></ul></li></ul>
<b>学習時間</b>	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
<b>キーワード</b>	商人、商行為、商業登記、商号、名板貸人の責任、商業帳簿、商業使用人（支配人・表見支配人）、代理商